

## コンクリート構造診断技術(2007年7月)

本テキストの火害を受けたPC鋼材の強度低下について、記述の誤りがありましたのでお詫び申し上げますとともに以下のように訂正いたします。

【訂正箇所】本テキスト250頁の12.2.3 導入プレストレス量の損失

(訂正前)

「～鋼棒においては約300 以上、鋼より線においては約500 以上の高温になった時点で、強度が急激に低下する～」

(訂正後)

「～鋼棒においては450 以上、鋼より線においては300 以上の高温になった時点で、強度が急激に低下する～」

(社)プレストレストコンクリート技術協会  
コンクリート構造診断士 講習会小委員会